



# ほっと

No.13

2024.10.4 発行

甲田中学校

保健室 種市

## 甲魂祭！革命～夢を広げ、絆を深め合おう～

9

日後に迫った今年度の甲魂祭。校内には素敵な音色が響き渡り、放課後になると短期集中で各係が準備に取り組んだりと、徐々に盛り上がっている様子。当日が、とても楽しみです。

最近、ともしびプラス代表の方から小児がんについて話を聞いたり、後期始業式で代表者が夢を語る姿を見たりして、ふと「いいな、これ！と思う夢があって。自分の夢は何だろう？」と考えています。まだ答えは見つからないのですが、「できることを全力でする」「勇気づけ、人の役に立つ人になる」「ご縁を大切にする」そんな言葉を大切にしていたら、「きっと、今はまだ夢はなくても、いつか夢のかけらを見つけ広げて、絆を深め、自分の中で革命がおきるのでは？」と思うようになりました。日々の活動がすべて、夢につながる1歩だと思って大事に過ごしていきたいです。

さて、急に肌寒くなり、日中は暖かくても帰る頃には寒さが一層増しています。「本番、体調不良で欠席」「合唱コンクールで声が出ない」ということがないよう感染症対策・防寒対策をしっかりとやっていきましょう。

### 10月のほけん行事

8日(火)骨と関節の日

10日(木)目の愛護デー

11日(金)甲魂祭リハーサル

12日(土)甲魂祭(～13日)

14日(月)スポーツの日

15日(火)世界手洗いの日 振替休業日(～16)

17日(木)SC来校

18日(金)東奥学園訪問説明会(3年)

21日(月)山田高校訪問説明会(3年)

23日(水)明の星高校訪問説明会(3年)調査書作成委員会

24日(木)2年防災教室

25日(金)1年防災演習

30日(水)3年模擬テスト

31日(木)生徒会役員改選

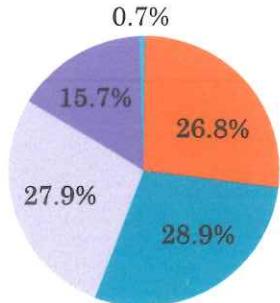


### がんから命の大切さを学ぶ教室

9月の世界小児がん啓発月間にあわせ、ご自身のお子さんが小児がんを患い闘病しながら、県内で小児がんのサポートをされている団体「ともしびプラス」の代表を務めている米田さんに、『小児がんの闘病生活～わが子の死と向き合って～』の題し講演していただきました。アンケート結果や感想を読むと、みなさんのがんへの理解や「何ができることがあったら、サポートしたい！」という意欲が高まっているのがよく分かりますので、紹介します。

#### 【 01 がんになっても生活の質を高めることができる 】

【前】



■ そう思う

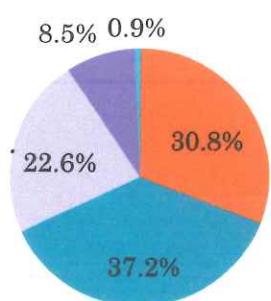
■ どちらかといえばそう思う

■ どちらかといえばそう思わない

■ 思わない

■ 無回答

【後】



■ そう思う

■ どちらかといえばそう思う

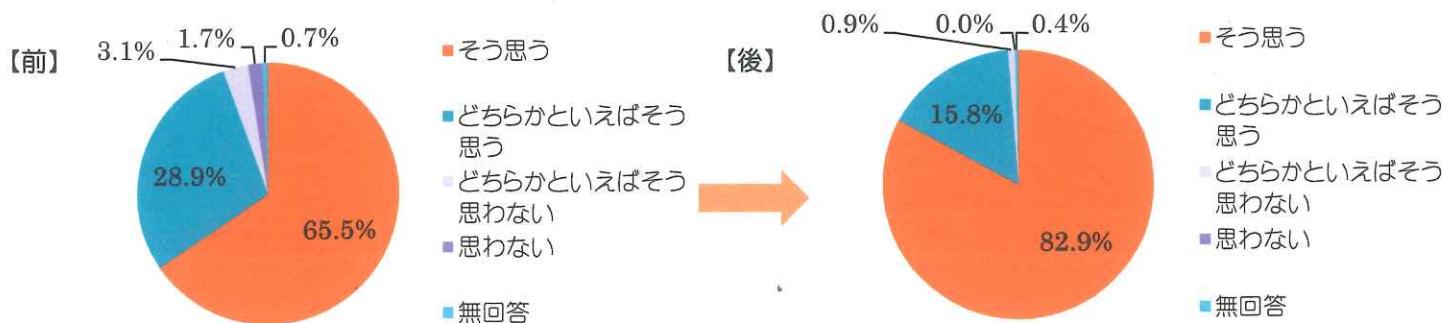
■ どちらかといえばそう思わない

■ 思わない

■ 無回答



【 Q2 ガンになっている人も、過ごしやすい世の中にしたい 】



- 私は、米田さんの話を聞いて、小児がんのことを初めて知り15歳以下の子供が苦しんでいる姿をみて、ヘアドネーションなどから始めてみたいと思いました。
- 生まれて間もない子供も癌になってしまい、辛い治療を頑張って受けていることを知ってすごく胸が痛くなりました。大人になったら献血やドナー登録などできることはしようと思いました。
- 私は1歳のときに不全型川崎病にかかり自分の中では記憶はないけれど、写真などを見て両親から「こんなことがあったんだよ。」と、聞いていました。今日の講話を聞いて、とても私の親もたくさん苦労していたんだと思いました。今的生活が当たり前だと思わないで生きていきたいです。
- 学校に行って友達に会えるのは、当たり前のことではないと改めて感じました。人からもらった言葉をもっと大切にしたいです。そして、家族や身近な人が何よりも幸せになってほしいです。
- 家族の中でドナーカードについて話し合ったことはあったけれど、がんのことについては話し合ったことがなかったので、家族と話したいと思いました。がんというワードからネガティブなイメージばかりがあったけれども、闘病生活を送って精一杯生きている人がいるということを知ることができてよかったです。
- あんなに小さい赤ちゃんでもがんになって、その痛みや苦しみとがんばって戦っていることがすごいし、看病と育児を両立して、寝不足になりながらも一緒に闘っているご両親もすごいと思いました。これからは青森県内で小児がんへの理解や治療できる場所などがもっと充実していくべきと思いました。
- がんと聞けば、今まで「タバコやお酒の影響でなること」しか思い浮かばなかつたけれど、小さい頃に防ぎようがなくかかってしまうがんがあると知って、そんな人達も過ごしやすい世の中になればいいと思いました。
- 米田さんは、自分の娘さんが闘病したことの経験を、ただ「辛かった」で終わらせるのではなく、自分と同じような境遇に経っている人がたくさんいるのに、支援している団体が一つもないという現実を変えるために、自分が動くという行動力がすごいと思いました。自分も将来は看護師になりたいと思っているけど、これまで白血病のことは全く知らなかつたので、将来に活かしたいと思いました。
- 実際の体験を聞いて青森では治療できる病院が少ないと、まず驚きました。がんになった人にも優しい世の中になって、がんになっても希望を持ち続けられるようなイメージを作っていくたい。健康に生きていられることこそ、幸せだと思った。
- 小児がんの理解が求められているのは、苦しむ人、辛い人が置き去りにされているからなのだと、闘病生活の話を聞いて思いました。子供が何も知らずに苦しむのを見るのは、本当に辛いことだろうと思います。でも、その弱った体でも一生懸命生きようとする姿、笑顔が、闇の中の光となり、自信と勇気を与えたんだと思いました。
- とても小さな赤ちゃんが、闘病している姿にとても驚きました。苦しそうだったけれど、笑顔もあったので、嬉しかつたです。今日小児がんについて知ることができてよかったです。身近な人からでも、私も小児がんについて話していきたいです。
- こんな小さい赤ちゃんがあんなにも頑張っている姿を見て、自分も些細なことで落ち込まないで一生懸命生きようと思えました。